

3.1 小学校低学年 (3-1)

I 対処行動を知る 「防災マップづくり【1】」	
指導する学年	小学校2年生
指導する時間 (時数)	生活科「しゅっぱつ なかよし たんけんたい」(2時間/1時間目)
教育目標	地震や津波の恐ろしさを知り、学校のまわりにある避難場所を知る。 どこまで水が来ると予測されているのかを知る。
資料する資料	【動画-05】津波に人が流される実験の様子 【資料-01】尾鷲市防災マップ 【資料-11】津波に関する標識 【地図-01】学区の地図
関連する 教科・行事等	【行事】授業参観 【行事】児童朝会

【導入】-----

(1) 町たんけんで行ったところを振り返り、黒板にまとめる。
→大きな道路や商店、郵便局など地図の中で見つけやすいものを入れる

(2) 映像を見て、津波の恐さを復習する。



→津波の破壊力を確認し、命を守るためには逃げるしかないことを確認する
→尾鷲に津波が来る可能性が高いことも確認する

(3) 学習課題を把握する。

【展開】

(1) どのくらいの津波が襲来する可能性があるのかを知る。



【資料-01】 [12枚]
尾鷲市防災マップ



【地図-01】 学区の地図
(例: Google mapなどを活用)

①地図を見て、自分の町だったら、どこまで水が来るか予測する。

→町たんけんで見学した場所とかかわらせながら、【地図-01】にどこまで津波が来るかを考えさせる

②過去の津波災害で浸水した場所を確認し、地図に色を塗り、予想と比べる。

→【資料-01】で過去の津波、今後襲来が予想されている津波がどこまで来るかを確認し、色を塗らせる

(2) 避難標識の写真を見せ、何のマークか等考える。



【資料-11】 [1枚]
津波に関する標識

→それぞれの標識の意味は何なのかを確認し、どこかで見たことあるか考える

左：津波注意 中：津波避難場所 右：津波避難ビル

【まとめ】

(1) 学習して気付いたことをプリント等に記入する。

(2) 感想等を発表し、今日の学習をまとめる。

→発言の中から、具体的にどの辺まで津波が来そうなのかをしっかりとさえる

(3) 次時の予告を聞く。

→次回は、町たんけんに出かけて、避難場所や浸水予測区域を確認するので、地図を見て、よく復習しておくように伝える

3.1 小学校低学年 (3-2)

I 対処行動を知る 「防災マップづくり【1】」	
指導する学年	小学校2年生
指導する時間 (時数)	生活科「しゅっぱつ なかよし たんけんたい」(2時間/2時間目)
教育目標	地震や津波の恐ろしさを知り、学校のまわりにある避難場所を知る。 津波はどこまでくるかわからないこと「想定を信じるな」を理解する。
資料する資料	【資料-01】尾鷲市防災マップ(※前回から継続使用) 【資料-17】想定を超えた津波による浸水域 【地図-01】学区の地図(※前回から継続使用)
関連する 教科・行事等	【行事】授業参観 【行事】児童朝会

【導入】-----

(1) 前回確認した、自分の町だったら、どこまで津波が来るかを復習する。



【資料-01】[12枚]
尾鷲市防災マップ

→大きな道路や商店、郵便局などをとりあげ、どこまで津波が来るのかを具体的に理解させる

【展開】

- (1) 避難場所や標識を探しに行き（町たんけん）、気がついたことをメモする。



【地図-01】学区の地図
（例：Google mapなどを活用）

- 【地図-01】に避難場所や標識の位置を記入させ、そこはどのような場所であることをメモさせる
→特に避難場所はどんな場所にあったか、どのような建物だったかに注意するように示唆する

- (2) 津波は地図に記された場所までしか来ないとは限らないことを理解し、とにかくできるだけ高いところに避難しなければならないことを確認する。



【資料-17】[2枚]
想定を超えた津波による浸水域

- ハザードマップに記された浸水範囲を信じて、犠牲になった人は少なくないことをおさえる

【まとめ】

- (1) 町たんけんに行き、思ったことや気付いたことをプリント等に記入する。
(2) 感想等を発表し、今日の学習をまとめる。
→津波の避難場所がどのような場所であったか（高くて広い場所）であったかをおさえる
→発言の中から、「津波はどこまでくるかわからないので、とにかく高いところへ避難する」ことをしっかりおさえる

【確認】

- (1) 学校近くの避難場所を知ることができたか？
(2) 高くて、広いところが避難場所であることを確認することができたか？
(3) 津波はハザードマップの想定通りとは限らないことを理解することができたか？